

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に助成事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

<p>組織・グループ名</p>	<p>特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会神奈川支部</p>
<p>活動区分 ※いずれか1つに○をつける。</p>	<p>● 一般助成 ①当事者支え合い・当事者支援の促進 ②地域福祉コース(課題)への対応 ③福祉の学び(参加型福祉教育)の推進 ④福祉コミュニティの構築] ● 協働事業助成 [1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動 2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動]</p>
<p>助成事業名</p>	<p>イベント開催(「読書アシスト」講演会と「手書き要約筆記の表記」についての学習会)</p>
<p>助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。</p> <p>●「読書アシスト」の講演会 テーマ:「自然と速く読める文章表示技術『読書アシスト』~日本語レイアウトの可能性~」 目的: 私達要約筆記者は、聞こえづらい方に音声文字にして伝える活動をしている。今後一層、音声認識の利用や電子ディスプレイ等の進化が見込まれ、提供される文字情報は増えていく。利用者には、それらを速く読み正確に理解することが必要となる。この講演会で講師の開発した画期的な文章表示技術を紹介することにより、要約筆記や字幕付けを担う方に、また利用者に、新たな視点で文字表示を考える場を提供できた。</p> <p>日時・場所: 11月6日 13:30~16:00 川崎市聴覚障害者情報文化センター研修室とZoom配信 講師: 小林潤平氏(大日本印刷株式会社) Zoomでの講演 受講者: 会場参加者4名、Zoom参加者56名 神奈川県内の要約筆記者、中途失聴者・難聴者(含県内各難聴者協会会員)、聴覚障害者情報提供施設スタッフなど。日本聴覚障害者学生高等支援ネットワーク(PEPNet-Japan)のSNSに掲載いただけただけで、難聴学生への情報保障コーディネーターや外国人への日本語教育者など従来の枠を超えた参加者をえられた。</p> <p>内容: 文書のレイアウトを変換する技術である「読書アシスト」は、目の動きをスムーズにすることで自然に読む速さを高められるものである。開発に使った手法や開発後の幾つかの場面での実証実験とその結果を紹介された。既に2022年5月に、この技術を使った書籍「2倍速で読めて忘れない 速読日本史」が出版されているが、今後も様々な用途での実用化を進めることや、現在研究中の表示方式「部分的退色テキスト」についても説明された。</p> <p>今後の展望: 講演会后、講師と「読書アシスト」システムの開発会社の担当者から要望があり、PC要約筆記(IPtalk)のデモンストレーションや機能の説明を行った。現在の要約筆記画面に、「読書アシスト」技術を応用できる可能性がありそうで、PC要約筆記開発者との橋渡しをした。今後の展開次第では、来年度以降の事業として再度取り上げる可能性がある。</p> <p>●「手書き要約筆記の表記」についての学習会 目的: 2022年度の全要研集会で開催された講義の中から、県内要約筆記者から再度の開催要望が出ていた手書き要約筆記の表記に焦点を当てた学習会を実施した。</p> <p>日時・場所: 1月9日 13:30~16:30 対象: 参加者19名</p>	

神奈川県内の要約筆記者派遣事業者に現在登録している、または以前に登録していた手書き要約筆記者。

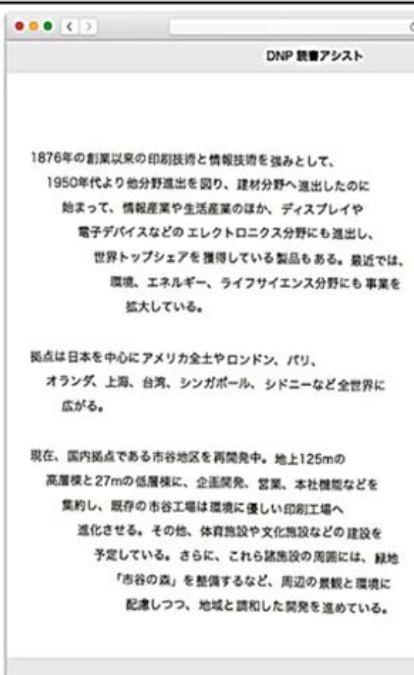
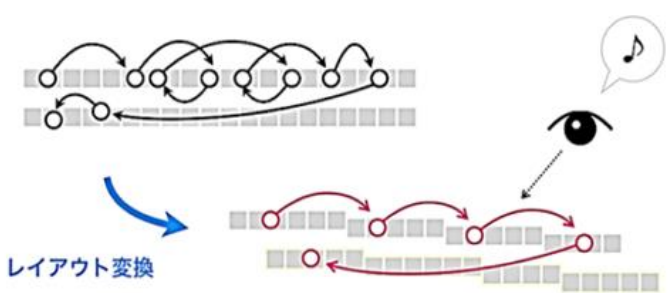
内容：講師は全要研集会和同じく全要研認定講師の長尾康子氏と愛知県支部の大嶋千波氏。対面でOHC 2台を用意し、実施した。

グループでの話し合いで出た表記の悩みを共有し、参加者の実技検証で講師からの具体的な対処方法の提示を受けた。ペンの持ち方、利用者が読みやすい画面表記とするためには適切な改行や余白なども重要であること、日常での勉強方法などもお教えいただいた。

参加者からは、「改めて手書き要約筆記の表記の基礎を学び直すことができた、指導していただいたことを意識して書くようにしたい」との感想が寄せられた。

読書アシスト

- 文章レイアウト変換技術
- 読む目の動きをスムーズにする
- 最大で約2倍のスピードで読める



1876年の創業以来の印刷技術と情報技術を強みとして、1950年代より地分野進出を図り、建材分野へ進出したのに始まって、情報産業や生活産業のほか、ディスプレイや電子デバイスなどのエレクトロニクス分野にも進出し、世界トップシェアを獲得している製品もある。最近では、環境、エネルギー、ライフサイエンス分野にも事業を拡大している。

拠点は日本を中心にアメリカ全土やロンドン、パリ、オランダ、上海、台湾、シンガポール、シドニーなど全世界に広がる。

現在、国内拠点である市谷地区を再開発中。地上125mの高層棟と27mの低層棟に、企画開発、営業、本社機能などを集約し、既存の市谷工場は環境に優しい印刷工場へ進化させる。その他、体育施設や文化施設などの建設を予定している。さらに、これら諸施設の周囲には、緑地「市谷の森」を整備するなど、周辺の景観と環境に配慮しつつ、地域と調和した開発を進めている。

全国要約筆記問題研究会神奈川県支部講演会 案内チラシより引用



指名された受講者がOHC ロールに書く実技